

# 道徳科学習指導案

三次市立三良坂中学校

指導者 平田 剣士郎

- 1 日 時 平成29年12月7日(木) 第5校時
- 2 学 年 第3学年 20名(男子10名, 女子10名)
- 3 場 所 第3学年教室
- 4 主題名 思いやりと感謝の心【内容項目B 思いやり, 感謝】
- 5 ねらい 故郷で出会う人々の温かな思いやりに触れ変容する研一の姿を通して, 思いやりと感謝の心の根底には, 人に対する深い理解と共感があることや多くの人々の善意や支えにより, 日々の生活や現在の自分があることに気付き, それに進んで感謝し, 人間愛の精神を深めようとする道徳的心情を養う。
- 6 教材名 「帰郷」 【私たちの道徳 中学校(文部科学省)】

## 7 主題設定の理由

### ○主題観・価値観

本主題は, 「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」B-(6)「思いやり, 感謝」を基に設定した。

「思いやりの心」は, 他者と接するときに必要な心の在り方である。他者の立場を尊重し, 支える生き方である。その心の根底には, 人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。他者の立場を尊重し, 支える生き方であるので, 思いやりの心は, 単なる他者に対する哀れみとは異なる。

また, 「思いやりの心」は「感謝」と関係が深いものである。「感謝の心」は, 主に他者から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方である。人間が, 互いに助け, 協力し合って生きていくことが出来るのも, 根底に「感謝の心」があるからである。こうした意味で, 潤いのある人間関係を築く上で欠かすことのできない大切なものである。そして, 今の自分があるのも, 多くの人々によって支えられてきたという感謝の念から自覚することができる。そして, このような人との関わりの中で, 温かい人間愛の精神を深めるとともに, これを模索し続けることは極めて大切なことであるとする。

中学校の段階では, 思いやりや感謝が大切であるということについて理解しているものと考えられる。しかし, 人は時に自己中心的になりやすく, 他を省みない行動に走る場合がある。また, 日々の生活の中で自分を支えてくれている多くの人の善意や支えに気付いている一方, 家族など日常的に接している人に対して, 支えられていることを有難いと思いつつも, 疎ましく感じたり, 感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさを感じたりしているものとする。自分にとって身近な存在への態度がそうであるため, 相手の立場や気持ちに対する配慮や感謝の対象の広がりについて理解を深めていくことは難しいものとする。

しかし, 「思いやりと感謝の心」は潤いある人間関係を築く上で欠かすことのできない大切なものである。そのため, 「思いやりと感謝の心」には, 人間尊重の精神と深い人間理解や他者への共感が根底にあることや誰もが周囲の支えによって今の自分があるということを実感し, それらに進んで応えることは, より強い自他の絆を育んでいくことにつながっていくことに気付かせるために本主題を設定した。

### ○生徒観

道徳教育「改善・充実」総合対策事業に係る生徒の意識調査によると, 第3学年の9割以上の生徒

が、「相手のことを思いやり、親切にしている」と回答している。(第3学年20人回答)

質問項目	5月	7月	11月
相手のことを思いやり、親切にしている	100	95.0	95.0

また、事前アンケートで、生徒に「思いやりに対する捉え」について矢印で図示させ、そのように表現した理由を書かせた。以下は、生徒の理由を分類したものである。

	分類	理由(例)
①	誰に対しても(人間愛)	・全ての人、どこにいる人に対しても思いやるのが思いやり。
②	支えや協力	・困っている人はみんなで思いやり、その人はみんなに思いやりを返す。 ・相手のことをカバーできるような優しさ。 ・お互いに協力していくこと。
③	人に対する理解と共感	・思いやりはまっすぐだから。 ・人から人へまっすぐな気持ちで、相手の気持ちに入り込んでいく。
④	双方向	・自分が相手を思いやれば、相手もそれを返してくれる。逆もまた同じ。 ・思いやると人からも思いやりが返ってくる。 ・思いやるし、思いやられるから。 ・思いやりは双方向だから。
⑤	漠然としたイメージ	・包み込む感じ。 ・思いやりは、人にとって良いことをしているから。 ・優しさだから、丸みがありそう。明るいイメージ。
⑥	理想とする自分	・たくさんの人に思いやりをもつ。 ・自分からどんな人でも思いやりをもてるようにしたいから。

生徒の理由として、最も多かったものは、④の「思いやりは双方向」という考え方であったが、その考えの基になっているのは、「他者を思いやれば、自分にも返ってくる」という打算的な考えであると思われる。この結果をみると、「思いやりの心」とは、他者と接するときに必要な心の在り方であり、そこには、他者の立場を尊重し、支える生き方であるので、自分が行った行為に対する見返りを求めるものではなく、また、相手に対する哀れみから行うものでもないが、生徒はそのような捉えが十分出来ているとは言えないことが伺われる。

一方、本時のねらいに一部迫る意見も見られた(上記の表の①②③の回答)が、ほとんどの生徒は、「感謝の心」にまで考えを広げられていなかった。

よって、今回の学習を通して、潤いのある人間関係を築く上で欠かすことのできない「思いやりと感謝の心」についての考えを深めるために、「思いやりと感謝の心」には人間尊重の精神と深い人間理解や他者への共感が根底にあること、誰しも周囲の支えにより今の自分があり、それに進んで応えようとすることは、自他の絆を育てていくことに気付かせていく必要があると考える。

また、教材「月明りで見送った夜汽車」を用いて行った本時と同じ内容項目「B 思いやり、感謝」の学習では、他者の立場を尊重し、支える側の視点から「思いやりの心」について考えた。そこで、本時では、さらに「思いやりの心」を多面的・多角的に捉えさせるため、支える側・支えられる側双方の視点に立って、両者の心情について考えていき、「感謝の心」そして、それに進んで応えていくということについても考えさせていくこととする。

#### ○教材観・指導観

本教材は、離れて暮らす母の入院により一時帰郷した主人公が、生まれ育った故郷の人々の親切やいたわり、励ましといった思いやりの心や母が築いてきた人間関係に触れる中で、人と人とのつながりの温かさやそれを支えている人間愛の精神について考えていくことが出来る教材である。

指導に当たり導入では、問題意識をもたせるための工夫として、教材「月明りで見送った夜汽車」の学習や事前アンケートにおける生徒の「思いやりに対する捉え」を活用し、教材に対する意識付けとする。そして、「思いやりの心の根底にあるものは何か。」という課題を基に本時のねらいに迫らせていく。

中心発問に至るまでの基本発問では、高齢の母を心配する気持ちや自分の仕事のこと、これからの

生活を不安に思う心情について考えさせるために、「故郷に向かう電車の中で、研一は何を考えていたでしょうか。」と問う。この時の心境は、女手一つで育ててくれた母に対し、自分で何とかしなければならないというように、親子の関係だけで悩んでおり、他者とのつながり、支えにまで気が回っていない心境について気付かせておく。

また、中心発問前の基本発問では、思いやりの心の根底にある他者に対する深い理解と共感といった人間尊重の精神に気付かせるために、「故郷にどんな『ぬくもり』があったでしょうか。」と問う。その際、生徒の思考を深めるために、研一と母、町の人達とのつながりが視覚的に捉えやすいように構造的に板書を行う。

この2つの基本発問により、中心発問では、周囲の支えにより今の自分があるという感謝の心についての理解を深めていくが、それだけではなく、この普遍的な人と人との関わりの中で育まれる温かい人間愛の精神について考えさせるために、「今回の帰郷で研一は何を感じ、これからの生き方にどう影響を与えていくでしょうか。」と問い、これからのより強い自他の絆を育んでいきたいとする志向につなげていく。

終末では、本校駅伝部での出来事を説話として取り上げる。今年の駅伝部女子は、急遽入部してくれた生徒や本番数日前に補助員を申し出てくれた男子生徒の支えがなければ、大会出場が叶わなかった。特に、補助員を申し出てくれた生徒の行動やその保護者の後押しに本時のねらいが凝縮されていると考える。その保護者は、「困っているのなら、協力してあげなさい。」と我が子に投げかけられたようである。そこに、人と人が築き上げていく温かな人間愛の精神があると考える。よって、この説話をする事により、生徒に、今、そしてこれから出会う全ての人々に対する人間愛の精神を志向する心情につなげていきたいと考える。

## 8 指導のポイント

### (1) 小中9年間の発達段階における【思いやり、感謝】のとらえ ※小学校（思いやり、感謝）

段階	学習指導要領（ねらい）	ポイント	児童・生徒の言葉
低学年	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること	身近な人 温かい心 親切	お年寄りや年下の子、身の回りの人にどのようにしてあげるといいかな。
中学年	相手のことを思いやり、進んで親切にすること	思いやる 進んで親切	困っている人がいたら助けたいと思う心 悲しんでいる人がいたら、気遣おうとする心 喜んでいる人がいたら、うれしく思う心 たくさんの人に思いやりの心を広げよう。
高学年	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること	誰に対しても思いやりの心をもつ。 相手の立場に立った親切	どうすれば相手のためになるのかを考えてみる。 相手の気持ちと自分の気持ちを重ねてみよう。
中学生	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること	思いやりの心 感謝 感謝に応える。 人間愛の精神を深める。	強さも弱さももち合わせた人間が、互いに認め合い尊重し合う。 「思いやりの心」によって支えられている。 他者の思いやりに触れ、感謝の思いを抱き、支えられていることに気付く。 自分も誰かを支えたいと思う。

### (2) 主体的に学び合う授業づくりについて

○導入の工夫(★1問題意識をもたせるための工夫)

・教材「月明りで見送った夜汽車」で行った、本時と同じ内容項目の学習を思い返させ、「思いやりの心」

について、「前回と異なる視点で考えていけば、どのような見方ができるのだろうか。」と、本時のねらいとする道徳的価値に対する問題意識をもたせる。

- ・事前アンケートで、各自で考えた思いやりを矢印で図示したものを提示し、「思いやり」に対する多様な考え方に触れさせるとともに、「思いやりの心の根底にあるものは何か。」と問うことで、本時のねらいとする道徳的価値に対する問題意識をもたせる。

○中心発問へのアプローチ

- ・「今回の帰郷で研一は何を感じ、これからの生き方にどう影響を与えていくでしょうか。」と問うことで、今置かれている状況だけでなく、これから育んでいく温かな人間愛やより強い自他の絆を志向する心情について考えさせる。

○自分の生活へとつなげる工夫

- ・生徒にとって身近にあった駅伝部での出来事を紹介することで、当たり前だと思っていることも、本当は多くの人により支えられていることに気付かせる。また、これから中学校を卒業すれば、より多くの人たちと関わりをもつが、その中で自分はどうかについて内省させる。

(3) 協働的に学び合う授業づくりについて(★2対話の工夫)

- ・研一のこれからの生き方について、事前アンケートで「思いやりに対する捉え」を生徒に尋ねた時のように、矢印でその生き方について表現させる。この矢印は、あくまでも視覚的に捉えやすくするための補助や自分の考えを記述では上手く表現しづらい生徒の支援、また、なぜそのような表現をしたのか聞いてみたいと周囲に思わせるために用いる。生徒が、どのような矢印にしていくかと語る中に、本時のねらいとする道徳的価値が含まれてくると考える。

9 評価

(1) 授業評価のためのルーブリック

Hop	Step	Jump
故郷で出会う人々の温かな思いやりに戸惑いつつも変容する研一の姿について考えさせることができる授業であった。	思いやりと感謝の心の根底には、人に対する深い理解と共感があることや多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに気付くことができる授業であった。	進んで感謝し、人間愛の精神を深めようとする道徳的心情を養うことができる授業であった。

(2) 自己評価のためのルーブリック

中学校

レベル1	レベル2	レベル3
【 】について、考えることができた。	【 】についての自分の考えを、他者に伝えることができた。	【 】についての考えを、友達の考えとの相違点をもとに、深めたり広げたりすることができた。

※【 】内には、本時の学習で学べた価値(キーワード)について、生徒自身が自己評価し記入する。  
期待する生徒の記述(キーワード)

[ 思いやり 支え つながり 感謝 感謝に応える 人を愛する ]

10 準備物 私たちの道徳、道徳ノート、発問短冊、ホワイトボード、ネームプレート、電子黒板

11 学習展開

	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き(◎中心発問 工夫点★1問題意識をもたせるための工夫 ★2対話の工夫 ★3価値の再定義	指導上の留意点 (◆評価の観点)
導入	1 問題意識をもつ。 (1)教材「月明りで見送った夜汽車」の学習を思い返す。	○「月明りで見送った夜汽車」で印象に残っているところはどこですか。★1 ・気づいて電気を消し、歓声と拍手が起きた点。 ・忙しい中、人のことまで考えられた点。	○なぜ印象に残っているのか、理由も問う。

	<p>(2) 事前アンケートの結果から「思いやりに対する捉え」を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さり気ない気遣い。</li> </ul> <p>○みんなは「思いやり」について、どんな捉えをしていたでしょうか。★1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての人、どこにいる人に対しても思いやりが思いやり。</li> <li>・困っている人はみんなで思いやり、その人はみんなに思いやりを返す。</li> <li>・人から人へまっすぐな気持ちで、相手の気持ちに入り込んでいく。</li> <li>・自分が相手を思いやれば、相手もそれを返してくれる。逆もまた同じ。</li> <li>・思いやりは人にとって良いことをしているから。</li> <li>・丸みがありそう。明るいイメージ。</li> <li>・たくさんの人に思いやりをもつ。</li> </ul>	<p>○人により様々な捉えがあることに気付かせる。</p> <p>★1(1)(2)により、「思いやり」といっても様々な視点や捉えがあることに気付かせ、本時の学習を通して、さらにねらいとする道徳的価値に深く迫らせるための学習課題を提示し、問題意識をもたせる。</p>
<p><b>思いやりの心の根底にあるものは何か。</b></p>			
<p>展開</p>	<p>2 教材「帰郷」を読んでも話し合う。</p> <p>(1) 故郷に向かう電車の中で、母や仕事のことなど、これからの不安や責任などについて揺れ動く主人公の心情を考える。</p> <p>(2) 研一が故郷で感じたぬくもりについて考える。</p>	<p>○「帰郷」を聞き、考えていきましょう。</p> <p>○故郷に向かう電車の中で、研一は何を考えていたでしょうか。</p> <p>【母親に対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大丈夫だろうか。</li> <li>・しばらく帰っていないので、心配をさせた。</li> <li>・申し訳ない。</li> </ul> <p>【仕事に対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・撮影は大丈夫か。 仕事で忙しいのに。</li> </ul> <p>【将来に対して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親の面倒を見なければいけないかもしれない。</li> <li>・自分に母の面倒を見切れるだろうか。</li> </ul> <p>○故郷にどんな「ぬくもり」があったでしょうか。</p> <p>【老夫婦】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母を付きっきりで看病してくれた。</li> <li>・これからのリハビリや身の回りのことを申し出てくれた。</li> <li>・好きだったチャーハンを覚えてくれていた。</li> </ul> <p>《理由》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親戚でもないのに、人のことに対してそこまでできる心の広さ。</li> <li>・研一やその母の苦労を理解し、何とか助けたいとする配慮。</li> <li>・研一を喜ばせたいと思いをめぐらせてくれているところ。</li> </ul> <p>〈問い返し〉どうして老夫婦はここまでしてくれるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族じゃなくても関係ない。</li> <li>・困った時はお互い様である。 見過ごせない。</li> <li>・息子さん思いの母を助けてあげることが、息子さんのためにもなる。</li> </ul>	<p>○母の心配もだが、自分への影響についても悩んでいる研一の心境について押さえる。</p> <p>○単なる行為のみの発表ではなく、なぜその部分にぬくもりを感じたのか理由を問い、思いやりの心の根底にある、他者に対する深い理解と共感について気付かせる。</p> <p>○研一と母、町の人達とのつながりが視覚的に捉えやすいように構造的に板書を行う。</p>

	<p>(3) 帰郷を通して得たこれからの研一の生き方について考える。 【かんがえよう】</p> <p>【問いをさがそう】</p>	<p>【研一の母】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕送りを息子名義で貯金。芸能活動のスクラップ記事。店内に写真を飾らない。</li> <li>・東京で暮らそうという研一の申し出を断る。</li> </ul> <p>&lt;問い返し&gt; どうして研一の申し出を断ったのでしょうか。</p> <p>《理由》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京で頑張る息子をかけながら応援、支えてくれていた。</li> <li>・頑張っている息子への配慮。</li> </ul> <p>【常連さん】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見舞いにきてくれる。</li> </ul> <p>《理由》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母が築いてきたつながりのすごさ、大きさ。</li> </ul> <p>【同級生（雅也）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心配、気遣いをして声をかけてくれた。</li> </ul> <p>《理由》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係の深さ、浅さに関係なく気遣ってくれた。</li> </ul> <p>【タクシー運転手】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機転をきかして夜間入口に車を回してくれた。</li> </ul> <p>◎ 今回の帰郷で研一は何を感じ、これからの生き方にどう影響を与えていくでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・故郷の人たちの支えや善意で今の自分があることに気づき、少しでもその思いに応えようとしていく。</li> <li>・故郷の人達に少しでも恩返しをする。</li> <li>・自分にできることを精一杯行い、それを故郷の人達への感謝としていく。</li> </ul> <p>&lt;問い返し&gt; 故郷の人たちに対する思いだけでしょいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母や故郷の人達のように人を思い、協力を惜しまない人間として生きていく。</li> <li>・人と人とのつながりを大切していく。</li> <li>・直接感謝を返すのは難しいが、この受けた思いを別の人へとつなげていきたい。</li> <li>・誰に対しても温かな関係を築けるように、まずは自分のことだけにならず、他者に目を向けて生きていく。</li> <li>・表面的な関わりではなく、温かな関係、絆を深められるようにする。</li> </ul> <p>&lt;問い返し&gt; どうすれば温かい関係が築けると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分ではなく、人の苦労や悲しみをしっかり理解した行動をする。</li> <li>・まずは人のことを理解したり、置かれた状況に寄り添えるようにする。</li> <li>・受けた思いやつながりに感謝していく。</li> <li>・誰に対しても同じように関わる姿勢を大事にしていく。</li> </ul>	<p>○ 個人で考えた後、グループ協議で考えを深めさせる。</p> <p>○ 研一のこれからの生き方について、事前に「思いやりの捉え」を生徒に尋ねた時のように、矢印でその生き方について表現させる。記述では上手く自分の思いを表現することが難しい生徒への支援や矢印を借りて、研一が感じた点、これからの生き方について対話、発表をさせ、本時のねらいとする道徳的価値について対話がしやすいようにする。★2</p> <p>○ 研一のこれからの生き方を問うことで、多くの人々の善意や支えにより、今の自分があることに気付かせるとともに、今置かれている状況だけでなく、これからの温かな人間愛やより強い自他の絆を志向する心情について考えさせる。</p>
--	--	---	--

<p>終末</p>	<p>3 自分の生活を振り返る（内省化）。 【みらいへのヒント】</p> <p>4 教材と関連した説話を聞く。</p> <p>5 ルーブリックで本時の自己評価を行う。</p>	<p>○今日の学習を通して、今、そして、これからのような関係を築けるようにしていきたいと考えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今自分がいるのも、いろいろな人に支えられてきたらであるので、まずはその支えに感謝していきたい。</li> <li>・温かい関係を築くためには、自分のことだけでなく、より相手のことを深く考え、寄り添うことが大切だと思った。</li> <li>・温かな関係を求めるばかりで、自分は何もしていなかった。より深い関係を築くためには自分勝手な考えを捨てないといけない。</li> <li>・自分が受けた思いを全て返せる訳ではないが、別の形でその思いに応えていけるように精一杯生活したい。</li> </ul> <p>○身近にあった「思いやり」に関するエピソードを紹介します。</p> <p>○今日の学習で考えたことをキーワードにし、学び方について振り返りを書きましょう。</p>	<p>○学んだ道徳的価値について、自分の生活や経験を振り返り、これからの自分に生かす思いを道徳ノートに記入させる。その際、事前アンケートを見直しながら振り返りをさせる。★3</p> <p>◆思いやりと感謝の心の根底には、人に対する深い理解と共感があることや多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに気づき、進んで感謝し、人間愛の精神を深めようとする道徳的心情を養う。 (発言, 道徳ノート)</p> <p>○未来へのヒントを発表させる。</p> <p>○生徒の身近にあった出来事を紹介し、普段の生活の中で、当たり前だと思っていることも、本当は多くの人により支えられていることに気付かせるとともに、自分と他者とのこれからの関わりについて気付かせる。</p>
-----------	---	--	--

◎今回の帰郷で研一は何を感じ、  
「これからの生き方にならう」影響を与えていくべきでしょうか

(例) つながりの温かさ  
温かさを広げる生き方

(例) 人々の支え  
応えていく生き方

**思いやりの心の根底にあるもの**

理解 ← 寄り添う  
 支え ← 善意  
 つながり ← 感謝  
 感 ← 謝  
 絆・愛を ← 深める姿勢  
 誰に対しても

```

        graph TD
            R1((研一))
            RF[老夫婦] --> R1
            M[母] --> R1
            C[常連] --> R1
            T1[同級生] --> R1
            T2[タクシー] --> R1
            
```

◎故郷に向かう電車の中で、研一は何を考えていたのでしょうか  
母・大丈夫か 心配かけた 申し訳ない  
仕事・撮影が心配 忙しいのに  
将来・これからどうしよう

◎故郷にどんな「ぬくもり」があったのでしょうか